

リハビリテーション教育特論

[講義] 第1・2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 坂上哲可 tsakaue@hoku-iryo-u.ac.jp 鎌田樹寛 小島 悟 高橋尚明 飯泉智子

【概要】

本研究科のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力」を修得することを目指す科目である。

リハビリテーション臨床における教育（実習指導者）に有用な理論や実践報告を通して、効果的かつ合理的な教育指導について学ぶ。

【学修目標】

保健・医療・福祉分野において指導的立場で活躍するために、リハビリテーションにおける効果的かつ合理的な教育指導を理解できる。

1. 教育の価値を説明できる。
2. 教育活動の計画書を説明できる。
3. 学習方略を説明できる。
4. 教育評価を説明できる。
5. 社会の変容と学生の変容について説明ができる。
6. やる気を引き起こす教育心理学的理論について説明ができる。
7. 卒前教育としての臨床実習の意義を説明できる。
8. 各職能団体が提言する臨床実習の教育目標を説明できる。
9. 事例をもとに教育観点からあるべき指導方法について討議できる。
10. ハラスメントとその防止策について説明ができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|--|--|------|
| 1～3 | 1. 学習目標の確認 2. 臨床における教育とその変遷 | 第1回は当大学院3ポリシーと受講生の学びの意志との間に齟齬がないかを確認する。第2・3回目については、卒前と卒後における臨床教育についてハラスメントを防ぐ視点加えて解説しディスカッションを行う。 | 高橋尚明 |
| 4～6 | 医学教育学分野のカリキュラム・プラン | 4回～6回は学習目標・行動目標・学習方略・評価等に関する医学教育の考えかたを教授すると共に受講生自身の経験を振り返ることを通して本科目の「学習目標」に到達することを目指す。 | 坂上哲可 |
| 7～9 | 1. 社会や学生の変容に関する理解や教育的関わりについての考察 2. 「やる気」に関する知識と適用 | 第7～8回では、社会の変容と学生の変容について、資料に基づく討論を通して理解を深める。第9回では、教育指導に関連される「やる気；モチベーション」に関する知識を基に、教育や実習指導への適用や応用について討議する。 | 鎌田樹寛 |
| 10～12 | 臨床実習教育 | リハビリテーション専門職を養成するうえで重要な位置を占めている臨床実習教育をテーマに取り上げる。授業では、臨床実習の意義や教育目標・方法、さらには具体的な指導方法について討議することを通して、リハビリテーション専門職養成教育における臨床実習指導のあり方を考察する。 | 小島 悟 |
| 13～15 | 実践的な教育指導 | 近年重視される教育アプローチの基本を確認し、臨床実習指導への活用について討議を行う。この討議を通じて、卒前教育としての臨床実習の意義および目標を理解するとともに、実践的な指導方法に関する考察を深める。 | 飯泉智子 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート(50%)と討論への取り組み(50%)で評価し、ペーパーテストは課さない。

【教科書】

使用しない

【参考書】

適宜紹介する

【備考】

各講師の開講順は予定であり、前後する事がある。

【学修の準備】

講師により、前もって課題を提示する場合がある。

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること(160分)。

与えられた課題への取り組みレポートとして提出すること(160分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2: リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシー2に適合している。

【実務経験】

鎌田樹寛(作業療法士) 小島 悟(理学療法士) 高橋尚明(理学療法士)

坂上哲可(作業療法士) 飯泉智子(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。